

第51回生命情報科学シンポジウム

学術部門：第51回国際生命情報科学会（*ISLIS*）学術大会

一般部門：第51回生命情報の科学フォーラム

発表内容一覧

巻頭言

国際生命情報科学会(*ISLIS*)会長就任と 統合医療/補完代替医療の教育

川嶋 朗 医師・医学博士

- 1 国際生命情報科学会(*ISLIS*) 次期(2021年4月から)会長
- 2 東京有明医療大学 教授, 3 神奈川歯科大学 特任教授
- 4 新潟薬科大学 客員教授, 5 広島大学医学部 客員教授



要旨：2021年度 *ISLIS* 会長と 2021年8月22日に主題「スピリチュアル医療」として online で開催する第52回生命情報科学シンポジウム(詳細 *ISLIS* ホームページ掲載)の大会長に就任しました。統合医療の問題点を解決するために *ISLIS* で補完代替医療のメカニズムを解明し、神奈川歯科大学大学院で統合医療教育を実施して統合医療を正しく普及します。

キーワード：*ISLIS*, 生命情報科学シンポジウム, 統合医療, 補完代替医療, メカニズムの解明, 教育

研究発表

鹿との共生を目指して

橋爪 秀一

Idea-Creating Lab (日本、横浜)

要約：古くから、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、現在、毎年約60万頭の鹿が害獣として駆除されており、駆除された鹿の大部分は、ゴミとして廃棄されているのが現状である。我々は、鹿との共生を目指すためにも、駆除された鹿を有効資源として利用すべきと考えており、鹿肉、鹿皮や鹿茸の天然資源としての価値を模索している。

今回は、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド、中国及びドイツにおける鹿との付き合い方と鹿の資源としての利用法について報告し、鹿との共生方法について考察したい。

キーワード：鹿、共生、獣害、天然資源

橋爪秀一, E-mail: hashizume.shu@nifty.com 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303 電話・Fax. 045-783-2510

講演

ピラミッドパワーの科学的研究 (2007年10月～2021年3月)

(Scientific Research on Pyramid Power: Studies done from October 2007 to March 2021)

高木 治¹, 坂本 政道², 世一 秀雄¹, 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(*IRI*) (日本、千葉)

² ㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨: 我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー(ピラミッドパワー)に関して、厳密に科学的な研究を続けている。またピラミッドパワーを検出するバイオセンサ(食用キュウリ切片)の特性に関する研究も平行しておこなっている。本講演では、これまでの研究成果である9報の原著論文の内容を、年代順に解説を行う予定である。今後これらの成果が広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。なお、研究成果の詳細は、国際総合研究機構のHPに掲載していますのでご覧ください。<http://www.a-iri.org/iri-jp/>

研究成果(原著論文掲載順)

- 1) 2013年4月: PS内で瞑想した被験者による、バイオセンサへの非接触効果(ピラミッド効果)を発見した。
- 2) 2015年5月: PS内で瞑想した被験者による、遅延をともなったピラミッド効果を発見した。
- 3) 2016年6月: ピラミッド効果を検出するための一つの条件を特定した。
- 4) 2018年3月: バイオセンサから放出されるガス濃度の周期的(年間周期)な変化を発見した。
- 5) 2018年4月: キュウリの切断面の方向が成長軸に対して同方向か逆方向かの違いによって、バイオセンサから放出されるガス濃度が異なることを発見した。
- 6) 2019年3月: 6km以上離れた被験者の無意識の影響と考えられるピラミッド効果を発見した。
- 7) 2019年8月: 被験者の影響を除外した実験で、PSの潜在的な力によるピラミッド効果を発見した。
- 8) 2020年5月: PSの潜在的な力によって、PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサへの影響が、下段と上段で異なることを発見した。
- 9) 2020年12月: PSの潜在的な力が2種類あることを発見した(季節変動するピラミッド効果と季節変動しないピラミッド効果の発見)。

キーワード: ピラミッド、潜在力、瞑想、無意識、非接触効果、遅延、季節変動、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉県稲毛区園生町1108-2 ユウキビル4FA 電話 043-255-548 電子メール: takagi@a-iri.org

研究発表

季節変動するピラミッド効果と季節変動しないピラミッド効果 (Pyramid Effects with and without Seasonal Variation)

高木 治¹, 坂本 政道², 世一 秀雄¹, 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)

² ㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なる「パワー」に関して、厳密に科学的な研究を続けている。これまでの我々の9報の原著論文とその後の研究成果から、PSによるピラミッド効果は次の2つに分類することができた。(i) PSの潜在的な力がバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果。PSの潜在的な力を検出する実験は、PS内部に少なくとも20日間以上被験者が入らず、被験者の影響を除外した条件で行った。(ii) PS内部に被験者が入って瞑想をした場合、PSが被験者の未知エネルギーを変換してバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果。(i)に関して、これまでに次の2つの結果を得た。1) PSの潜在的な力によって、PS頂点に置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果の存在を実証した(春分と秋分で1年を2つの期間に分けた時、各期間のピラミッド効果を比較した結果、有意差を得た。 $p=6.0 \times 10^{-3}$, Welch's t-test, two-tails, これ以降のp値も同様)。2) PSの潜在的な力によって、PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果が、下段と上段で異なることを実証した(ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数が、下段のバイオセンサに対するサイ指数は-3.01でマイナスの値、上段に対するサイ指数は5.52でプラスの値となり、下段と上段のピラミッド効果の間で有意差を得た。 $p=4.0 \times 10^{-7}$)。本発表では、(i)に関する新たな結果を報告する。1年を冬・春・夏・秋の四季に分け、各期間のピラミッド効果を解析した結果、次のことが判明した。1) 季節変動を伴わないピラミッド効果が存在すること; PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサに対して、下段と上段に対するピラミッド効果が、季節に関係なく年間を通して異なっていた。2) 季節変動を伴うピラミッド効果が存在すること; 下段と上段に対するピラミッド効果が異なった状態を保ったまま、季節の変化に伴ってサイ指数の値が変化した。季節によるピラミッド効果の変化に関しては、下段・上段共に、冬に比べて夏のサイ指数が大きくなった。我々はこれらの結果から、PS頂点には、季節変動をする潜在力、季節変動をしない潜在力の2種類の潜在力なピラミッド効果が存在していることを発見した。今後これらの成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード: ピラミッド、潜在力、瞑想、無意識、非接触効果、遅延、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2019) Potential Power of the Pyramidal Structure. *Natural Science*, **11**, 257-266.

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Potential Power of the Pyramidal Structure II. *Natural Science*, **12**, 248-272.

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Potential Power of the Pyramidal Structure III: Discovery of Pyramid Effects with and without Seasonal Variation. *Natural Science*, **12**, 743-753.

次期会長講演

日本には統合医療教育が必要である

川嶋 朗

東京有明医療大学 (日本、東京)

要旨: 通常の医療では対処できない問題に、また医療費削減などを目的に、世界の多くの国では統合医療が実践され、教育されている。日本では、医師会が否定的なコメントを出し、行政も消極的で、野放し状態で非通常医療が実施されており、癌難民などの被害者もあとを絶たない。この状況を改善するために、高等教育機関による正しい統合医療教育こそ急務である。世界と日本の統合医療の現状を述べ、統合医療教育の必要性を訴えたい。

キーワード: 統合医療, 非通常医療, 教育

連絡先：川嶋朗 東京有明医療大学 保健医療学部鍼灸学科

E-mail: kawashima@med.email.ne.jp 〒135-0063 東京都江東区有明 2-9-1 電話 03-6703-7000 FAX 03-6703-7100

大会長講演

特殊環境に生息する微生物と歩んだ 38 年間の話

杉森 賢司

東邦大学医学部(日本、東京)

要旨: 東邦大学医学部生物学研究室にて 38 年間「温泉に生息する微生物」を主体とする研究に従事し、以下に示す研究を行ってきたことについて話します。

1. 好熱性および好酸性の微生物 (細菌類・藍藻類)

八幡平温泉群, 那須温泉群, 草津・万座温泉, 箱根温泉群 等の特殊環境に生息する生命について, 温泉生態系としての特殊性に注目し, 生物と化学成分等の関連性にも着目し, 「温泉生物学」について再構築した。

2. 嫌気的な環境下における微生物調査については硫酸還元菌と悪臭の関連性について, 東京都や神奈川県 of 河川や河口域について調査した。中国の内陸湖についても研究対象とし, 貴重なデータを得た。

3. 微生物が持つ特殊性や有用性を応用し, 未病で健康寿命を延ばす取り組みも始め, 温泉が新たな活用法として注目されている事について研究し, 実践した。

キーワード: 特殊環境, 温泉, 微生物, 好熱性細菌, 好熱性藻類

連絡先：杉森賢司 kensan@med.toho-u.ac.jp 東邦大学医学部

〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16 電話 03-3762-4151 FAX 03-3761-0546

コロナ禍における医療現場の実状

木村真人¹、坪井宏仁²、小山悠子³、西本真司⁴、山本伊佐夫⁵、川嶋朗⁶

¹ 日本医科大学 千葉北総病院 メンタルヘルス科 (日本、千葉)

² 金沢大学 医薬保健研究域

³ 医療法人社団明悠会 サンデンタルクリニック

⁴ 西本クリニック

⁵ 神奈川歯科大学災害医療・社会歯科学講座

⁶ 東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科

要旨: 毎日のように流れるコロナ情報、誰もがマスメディアの情報に翻弄されるのはコロナに限ったことではないが、実際に医療に関わりを持つ現場から見えてくる現状は？ 大学や診療現場、また種々診療科から見えてくる実態など、日本における現在の状況、今後の対応や問題点、さらに COVID-19 その他各種感染症についての科学的知見などを語り合い、その上で、参加聴衆からの自由な意見交換を交えて、現在我々が置かれている状況分析から今後の方向を考えてみたい。

キーワード: COVID-19、SARS-CoV-2、ワクチン、パンデミック、PCR 検査

著者連絡先: 270-1694 千葉県印西市鎌苅 1715 日本医科大学 千葉北総病院 メンタルヘルス科
電話 0476-99-1111 電子メール: kimu88@nms.ac.jp